

総合的学習の時間

📖 「解なき社会」を生き抜くために

永遠に生きられれば、人は幸せだろうか??

2020年から大学入試が大きく変わります。入試制度がどう改革されるのか？ どのような大学入試問題が出題されるのか？ などなど、分からないこともたくさんありますが、少なくとも2002年以降に生まれた子どもたちは、この新しい制度の大学入試で「合格」を目指すこととなります。

左の問いは、ある難関私立大学で出題された英語の問題の一部です。ちなみに、この問いは英文で出題されており、もちろん英語で解答しなければなりません。一見、古典的なテーマに見えますが、今後発展していくであろうAI(人工知能)などの科学に関する問題と、最先端技術を追求するがゆえの倫理に関する問題などが背景にあります。

この大学は文部科学省から「スーパーグローバル大学(SGU)」に認定されているので、2020年大学入試改革に向けた新しい問題作成にチャレンジしていると言えます。日本国内の大学でこのような問題を出題するところは多くありませんが、欧米の大学ではすでにこのような問題は当たり前に出題されています。この問いは、2020年からの大学入試問題を予想する上で重要なヒントになると思われます。

A 当然、「答えは1つ」ではありません。そして、答えを導き出すためには知識はもちろん、多様で柔軟な思考力が必要となります。

2020年の入試問題では、「今ここで起こっているグローバルな問題を、自分だったらどのように解決するか」を問われるでしょう。

浦和麗明高校の「総合的学習の時間」では、年間計画に従い、グループワークや映像視聴、ロールプレイングを中心とした授業を展開し、自ら課題を発見し、解決する「創造的思考力」や、自らの考えを論理的に伝え、協働するために必要となる「コミュニケーション能力」を伸ばしていきます。

2020年の大学入試改革で「答えは1つ」ではない問題が出題されると同じように、社会で生活していれば「答えが1つ」ではない課題に幾度となく遭遇します。今から予想もつかないほど大きく変化する未来の社会で生き抜き活躍するためには、未知なる世界を知り、突破口を見出す思考力と、他者と協力しその課題に立ち向かうためのコミュニケーション能力が、これまで以上に必要になるでしょう。

「答えが1つ」ではない、「解なき社会」を生き抜く力を、共に学びながら身につけていきませんか？



1年生

- 1学期：文理選択のための職業選択
- 2学期：校内インターンシップ
- 3学期：プレゼンテーション&労働・生活設計

将来の仕事から逆算をした上で2年次に文理選択を行うために、映像やグループワークを通して「知っている仕事」を増やします。その後、働くことに対するイメージを膨らませるために「校内インターンシップ」に取り組みます。



映像を通して実在する企業の業務内容や、その企業で実際に働いている方のコメントを聞き、複数の選択肢の中からインターン先を決定します。その後、研修を経て、企業から課題を受け取り、その課題に対する答えとなる商品・サービスを考えます。



インターン先企業ごとにチームを結成し、チームで1つの答えを導いていきます。しかし、企業から与えられた課題に対する答えは、簡単に導き出せるものではありません。ブレインストーミング(グループでアイデアを創出するための話し合い)や中間報告を繰り返し、アイデアをブラッシュアップしていきます。



チームで考えた商品・サービスの優位性や必要性を周囲の人たちに伝えるため、パワーポイントを作成し、クラス内でプレゼンを行います。その後、クラスで一番優秀なプレゼンをしたチームを集め、企業の方などを審査員として招き、「プレゼンテーションコンクール」を実施してグランプリを決めます。

2年生

- 1学期：社会問題を学ぶ
身近な問題を発見し解決方法を「ポスター・セッション」で伝える
- 2学期：国際情勢を学ぶ
地域の問題を発見し解決方法を「プレゼンテーション」で伝える
- 3学期：修学旅行事前学習

2年生では、映像を通じて食糧問題や環境問題、民族問題などの世界的な問題を学び、グローバルな視点から世の中にはどのような問題が起きているのかを学びます。

同時に、グローバル^{*}な視点から「身近」にある困りごとに焦点をあて、課題解決の方法を考えます。その内容は図やグラフなどを用いてポスターとしてまとめ、「ポスターセッション」を通してクラスの生徒、一般来校者の前でポスターを使いながらプレゼンおよび質疑応答を行います。

その後、課題解決の範囲を「地域」に広げ、皆さんが生活する「地域」にある課題を自ら発見し、その解決方法を考え、パワーポイントを使った「プレゼンテーション」を行い、「表現力」「説明力」を鍛えます。

また、3学期に実施される修学旅行に向けて、訪れる国の歴史や文化、現在の情勢などを事前学習として学び、併せて、為替の仕組みを理解します。

*グローバル:グローバルとローカルを組み合わせさせた造語。国際的視野で考え、地域視点で行動するという考え方。

3年生

- 1学期：未来の社会はどうなっている？
- 2学期：一票を投じる

18歳となって選挙権が与えられても、候補者の政策や主張を理解できなければ有効な一票を投じることはできません。その際、10年後・20年後の世界がどのように変わっているかを考え予測しておくことで、どのような対応策が必要となるかを知り、今後の社会の動向を理解した上で候補者を選択するという視点も必要でしょう。これまでの学習とこれからの社会を真剣に考えることで、主体的な一票を投じることができる「公民」になることを目指します。